

老年医学

ナンバリング

M4-S1-D15

責任者・コーディネーター		脳神経内科・老年科分野 前田 哲也 教授			
担当講座・学科(分野)		脳神経内科・老年科分野、臨床腫瘍学講座、外科学講座、呼吸器内科分野、泌尿器科学講座、整形外科科学講座、薬学部臨床薬学講座臨床薬剤学分野			
担当教員		前田 哲也 教授、板持 広明 教授、佐々木 章 教授、川田 一郎 教授、工藤 賢三 教授、杉村 淳 准教授、小野田 敏行 客員教授、佐藤 光太郎 講師			
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義	8コマ	16.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針(講義概要等)

世界の先進国は百年人生時代に入り、超高齢化社会の到来が告げられて久しい。今後も高齢者人口は増加すると想定されている。日本をはじめ世界の医療は遍く成人を対象として多くのエビデンスを積み上げてきたが、これからの時代は、いかなる領域の疾患であっても医療の対象が高齢者であるという事実を念頭に提供されなければならない。

老年医学は、生体の生理的あるいは病的な加齢変化を理解し、診断と治療の実践における老年人特有の問題点とその対策、老年人保健および福祉対策などを学ぶ学問である。病的老化の機序を研究対象とすることで、人類の生命予後の向上に貢献するサイエンスでもある。本講義ではこうした点を踏まえ、老年人に関する臨床各科の診療を習得することを方針とする。

・教育成果(アウトカム)

生理的な加齢変化、老年人の特徴を学ぶことで、感染症、悪性腫瘍、泌尿器疾患、骨疾患など老年人に多い疾患・症候について説明することができ、老年人に対する薬物療法、外科的治療と麻酔などに関する注意点などについて説明できる。また病的老化を学ぶことで、老化を科学的に捉えることができる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	寿命と加齢変化について説明できる。
2	加齢に伴う神経疾患について説明できる。
3	老年人の特徴、症候、治療、注意点を十分把握して説明できる。
4	老年人の免疫、感染症の重要事項や問題点を説明できる。
5	老年人の外科における診断と治療における重要事項や問題点を説明できる。
6	老年人の腎機能、排尿機能及び性機能の特徴を説明できる。
7	老年人の悪性腫瘍の特徴を説明できる。
8	老年人における薬物療法の注意点を説明できる。
9	老年人の骨粗鬆症における骨折、関節症の特徴と問題点を説明できる。
10	老年人の保健・福祉・介護について重要な事項を説明できる。
11	老年人の特徴をふまえた診察について説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程(各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載)

区分	月日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	5/21(水)	3	呼吸器内科分野	川田 一郎 教授	加齢と老年症候群	1,4,8
講義	5/21(水)	4	臨床腫瘍学講座	板持 広明 教授	老年人悪性腫瘍	1,2,3,7,8,11
講義	5/28(水)	3	脳神経内科・老年科分野	前田 哲也 教授	老化と免疫、老年人の感染症	1,3,7,8
講義	5/28(水)	4	泌尿器科学講座	杉村 淳 准教授	老年人の腎・排尿・性機能	3,6,8

講義	5/30(金)	1	整形外科学講座	佐藤 光太郎 講師	老年者の骨折、骨粗鬆症と関節症	1,3,5,9,11
講義	6/4(水)	3	外科学講座	佐々木 章 教授	老年者の外科療法	1,3,5,11
講義	6/4(水)	4	薬学部臨床薬学講座 臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授	老年者と薬物療法	3,8
講義	6/11(水)	3	医学部	小野田 敏行 客員教授	老年保健福祉介護	10

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
推薦図書	新老年学 第3版	大内尉義、秋山弘子 編	東京大学出版会	2010
推薦図書	老年医学テキスト 改訂第3版	日本老年医学会 編	メジカルビュー社	2008
推薦図書	標準外科学 17版	田邊稔 監修、池田徳彦、大木隆生、猪股雅史、篠原尚 編集	医学書院	2025
推薦図書	標準泌尿器科学 10版	並木幹夫 監修	医学書院	2021
推薦図書	ベッドサイド泌尿器科学 改訂4版	吉田修 監修	南江堂	2013
推薦図書	高齢者の麻酔：これからの時代に対応するために	稲田英一 著	真興交易医書出版部	1995
推薦図書	国民衛生の動向2021/2022（「厚生指針」増刊）	厚生労働統計協会 編	厚生労働統計協会	2021
推薦図書	高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015	日本老年医学会 編	メジカルビュー社	2015
推薦図書	老年腫瘍学	田村和夫、鍋島一樹、鈴宮淳司	文光堂	2008
参考書	神経内科ハンドブック 第5版	水野美邦	医学書院	2016

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（100%）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 講義終了後に自由ディスカッションを設けて学生の事前学習度を評価し疑問を解決する。また前回講義の振り返り、実践的な試験問題の事後解説あるいは小テストなどを行い、講義内容の理解度を確認しその結果を学生にフィードバックする。</p> <p>各講師が担当講義におけるルーブリックを設定し事前学習と事後学習の評価基準を示す。学習の見通しと学習成果の集約について、学生に目的および成果意識をもたせる。</p>
--

・特記事項・その他

<p>寿命、加齢変化 老年者の特徴、症候、治療、留意点 老年者の介護・福祉 老年者の排尿障害 老年者の骨折、骨粗鬆症と関節症 老年者の免疫、感染症 老年者の臨床検査値 老年者と薬物療法 老年者と悪性腫瘍 老年者と外科</p> <p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を展示する。</p> <p>講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>本科目では、事前事後学修以外に370分の自己学修を要す。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>
--

・教育資源

教科書・参考書、講義室、実習室、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			